

子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業

※プログラム名(募集時のプログラム名称を記入)

ユガテの森で間伐体験と間伐材を使ったコースターづくり

※地区名(埼玉県)・地区委員氏名:高杉 茂・指導者グループ代表者氏名:佐藤 永治

【事業のポイント】

(活動項目・ねらい等)

- 間伐体験を通して林業の現実と地球温暖化について考える機会にする
- 間伐材でコースターを作る
- 森の生き物や植物を観察する



1. 事業の趣旨

趣旨

小学校の学習指導要領における自然体験活動を通じた教育課程の趣旨を確認しつつ、何より、子供たちが楽しく、安全に、そして、主体的に目標達成に向かって活動できるように企画され、地域を担う人材の育成につながる、全国的かつ継続的な自然体験活動推進事業を実施することにより、子供たちの健全な心身を育む。

2. 実施概要

・参加者数は子供の人数を記入 ・経費の内訳は振替伝票及び支出証拠書類添付

開催実績					
月日	場所	参加者数	日帰り・宿泊	経費	主な活動
12月20日	飯能市	8			間伐体験、コースターづくり
/					
/					

※必要に応じて枠を広げたり、行を増やしたりするなどして記載してください。

具体的な取組の概要

午前9時20分に東吾野駅に集合し、受付で健康チェックをした。順次、事前アンケートを記入し、全員揃ったところで、あいさつ、自己紹介、注意事項の説明、アイスブレイク、準備運動を行い出発。今回は飯能日高ケーブルテレビの取材も入ることとなった。たくさん実のなった柿の木や柚子の木、ホタルのいる清流など里山風景を楽しみ、その後山道を登り約1時間かけてユガテの森へ到着。木楽会の方から、間伐の意味などのお話を聞いた後、木のロープ掛けの練習、間伐での木の切り方のレクチャーを受けた。ヘルメットをかぶり、腰にはのこぎりを下げていざ間伐体験。急傾斜の森の中での間伐となり、足場の確保も大変な状況だった。木にロープを掛け他の木に固定した後、木の受け口、追い口を切り、いよいよロープをみんなで引っ張る。木が徐々に傾き、バタン！と倒れる様は大迫力だ。その後、木楽会の方のプロの枝打ちやチェーンソーでの間伐の実演を見せていただいた。昼食休憩の後、午後は切った木を作業場まで運び込み、その木を輪切りにした。切った木は紙やすりをかけ思い思いに文字や絵を描きこんだ。木楽会の方からも、焼き印入りの素敵なヒノキや桜の木の輪切りをいただいた。午後2時30分、東吾野駅に戻り、事後アンケート記入、健康チェックののち解散した。

3. 成果と課題

(1) 事業の成果と課題

実際に森の中に生えている木を自分たちで切るということは、子どもたちにとってはかなりインパクトのある活動であったと思う。細い木に見えても、のこぎりで受け口や追い口を切るのは結構大変だったが、みんなで協力して粘り強く取り組んでいた。ロープをみんなで引っ張って木が倒れていく様子は迫力がある。子どもたちからは、切った木からいい香りがしたこと、切った木の切り口が濡れていたこと、切った木の年輪を数えたら20本ぐらいあったなどの言葉が聞かれ、体験したからこそ感じたり、発見したことがたくさんあったようだ。午後木を切った際にも、木を切っている子の木を他の子どもたちが押さえてあげるなど、自然に子ども同士が協力し合う場面が見られた。今回このような企画ができたのも木楽会の協力のおかげである。コロナ禍のなかで外出が抑制された子どもたちにとって、貴重な自然体験の場となったことと思う。今後は埼玉会の中でも子ども対象のイベント実施について検討しても良いのではと思う。